

2021年度

教員養成共同研究コミュニティ・フォーラム

今年度の活動と次の3年間の展望

オープン・エデュケーション・システムと
今後の教員研修

2班 梅川康治

1

2班：育成指標にかかる研修コースの開発班

R2年度の「育成指標の活用」に関する実態調査班の成果等に基づいて、必要とされる研修コンテンツをオンラインで受講可能な形で開発する。本学附属図書館が持つ「オープン・エデュケーション・プラットフォーム」を活用して配信を前提とし、活用可能な仕組みを探る。

活動開始時

- ・大阪府・大阪市・堺市のオンライン教員研修の現状把握
- ・「GIGAスクール構想にかかる教員研修」研究申請

2

オープンエデュケーションとは

大阪教育大学が、我が国の教育充実と文化発展に貢献し、地域の人々の福祉に寄与する大学としての使命を果たすため、本学教員によって生み出された、本学ならではの特徴的な教育・研究成果を、オンライン上で動画として広く発信する取り組みです。

教育リソースは、広く利用されることで新たな価値が創造され、学校教育の質改善や改革に貢献する可能性があります。

ご利用には、eラーニングプラットフォーム「Moodle」へのユーザー登録と、コースの受講登録が必要です。

ユーザ登録手順

- ホームページのURLは <https://opedu.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/> です。


はじめて、このサイトを訪問された方は、まずログイン窓の一番下のメニューでアカウントを作成してください。



3

大阪教育大学オープン・エデュケーション・プラットフォーム

ありがとうございます



**教育者向け
教員育成指標の活用**
大阪府、大阪市、堺市の現職教員向けに教員育成指標の活用方法を解説します

4

育成指標にかかる研修コースの開発班

| 機関名 | 氏名 |
|---------------------------------|--------|
| 大阪教育大学 大学院連合教職実践研究科副主任（高度教職開発系） | 峯 明秀 |
| 大阪府教育庁教育振興室高等学校課 主任指導主事 | 中川 ひろみ |
| 大阪市教育センター教育振興担当 課長 | 原 稔 |
| 大阪市教育センター教育振興担当基本研修企画グループ総括指導主事 | 井上 伸一 |
| 堺市教育委員会事務局教育センター能力開発課 指導主事 | 品川 隆一 |
| 大阪教育大学 大学院連合教職実践研究科 実務家教員 | 梅川 康治 |
| 大阪教育大学 大学院連合教職実践研究科 実務家教員 | 澤田 和夫 |
| 大阪教育大学 大学院連合教職実践研究科 実務家教員 | 松永 尚子 |
| 大阪教育大学 大学院連合教職実践研究科 実務家教員 | 榎本 哲郎 |
| 大阪教育大学 大学院連合教職実践研究科 研究者教員 | 木原 俊行 |
| 大阪教育大学 大学院連合教職実践研究科 研究者教員 | 鈴木 真由子 |
| 大阪教育大学 大学院連合教職実践研究科 研究者教員 | 寺嶋 浩介 |
| 大阪教育大学 大学院連合教職実践研究科 研究者教員 | 庭山 和貴 |
| 大阪教育大学 教育委員会・学校連携コーディネーター | 佃 千春 |

5

2班：育成指標にかかる研修コースの開発班

第1グループ
「GIGAスクール対応コンテンツ作成班」
学内予算の範囲で実施可能なものを検討

第2グループ
「教員育成指標研修コンテンツ作成班」
コンテンツ作成のためのガイドラインを検討

6

GIGAスクール

一人一台端末を使用した場合の指導の在り方について、
どのような研修動画、コンテンツを用意するのか。

1. 内容は以下の3本柱で30分以内

- ① ICTを活用した授業の原則を解説
- ② 大阪市、堺市の学校での活用事例を紹介
- ③ 文科省から出ているコンテンツの紹介

2. 作成における課題

- ・大阪府、大阪市、堺市のコンテンツをオープンにする？
肖像権は？
- ・協働学習をキーワードに

7

コンテンツの作成ガイドライン（基本コンセプト）

1. 行政研修として認定するためにパッケージを作る（将来的に）

2. 内容について

- ① 10分以内の動画（オンデマンド） スライドと音声
- ② 振り返りのレポートを課す 受講確認のため
- ③ 「ICTを活用した授業の原則を解説」「大阪市、堺市の学校での活用事例を紹介」のセットをいくつか合わせてパッケージを作る

3. 対象について

教員限定か一般に広げるか

- ① 教員（初任、中堅、管理職）をイメージして作成
- ② 問題ないものは公開していく（著作権のチェック必要）

8

4. その他

- ① 大阪府・大阪市・堺市に共通する育成指標に基づくもので
作成の依頼・調整をしていく
- ② コンテンツ化の依頼
教職大学院に授業の一部のコンテンツ化
コンプライアンスのコンテンツ化
- ③ 育成指標の活用例（有効活用の事例紹介）を紹介

将来的に

より具体的な細部を議論・検討する必要がある

9